



新社会人の季節である。私は一九七〇年三月三十一日大学紛争で遅れた卒業式を終えたその足で、初めて新幹線に乗って東京から大阪に向かった。翌日から住友金属本社での入社式、続いて本社研修。二週間後配属先の尼崎の鋼管製造所で現場実習。真夜中働いている夜勤にびっくり、作業実習での文鎮づくりでは鉄玉を溶接したものの、寮に持ち帰ったらポロリと落ちる体たらく。なんとか現場実習を終えて七月に配属。なんと経理課。恐る恐る指導

社会人へソフトランディング

員に連れられ課長に挨拶。肩間にシワ、ギョロツとした目、ところがその出で立ちは、兵隊帽にランニングシャツ、汚い手ぬぐいを椅子に巻き付けている。「成瀬です」。特に訓示なし。ちょっと「はにかんだ」ようにも見えた。この森欣一課長（通称モリキン）の下で働くようになった。「プロになれ」「給料分働け」が口癖、所内一の論客だが、アフター５は一切問わず、長髪もお咎めなし、そして雑学の大家。ある朝会社に行くとき、「成瀬君今日は何の日だ」「えっ、二月二十六日？あ、あ二・二六事件ですね。僕の卒論は北一輝ですよ」何か言いたそうであったが「そうか」と一言。そのうち女性からは晶貞されていて

ると羨ましがれ、いつの間にか第二のオヤジのようになっていた。一方、仕事の方とは言うところ、大学時代のセミは唯物史観に立った日本現代史、吉本隆明や三島由紀夫といった偏尚的読書、六法全書すら読んだ事もなく、ましてや簿記や会計など全くの無知。簿記の本を渡されても居眠りばかり、貸借対照表を見ても何を貸し何を借りているのかチンプンカンプン。しかし、会社にはそんなボンクラの為にマニュアルが用意されている。昔は今と違って手作業である。ゴム判でマニュアルどおり勘定科目を押しして数字を書けばなんとかなる。何か月か繰り返すうちに、現金が

右の貸方に来て原料が左の借方に等価で来る、原料を使うと右に来て等価で左に半製品が来る。そして原料は消える。何とこれはエネルギー不滅の法則。複式簿記はエネルギー不滅の法則と見つけたり！それも振替伝票をたどれば全ての事業活動が解る。そうだ、俺は住友金属鋼管製造所の歴史の記述者である。こうして仕事にも馴染み、風変わりなモリキン課長のおかげで、世間知らずの、非常識な、甘ちゃんの大學生が社会人へとソフトランディング出来たのである。級友たちから会社勤めは三日と持たないと言われた私がなんと半世紀と一年働かせてもらっている。ありがたい事である。